

城と城下町—出雲の戦国時代—

戦国時代の城下町、富田川河床遺跡について

—尼子氏、吉川氏、堀尾氏—

島根県古代文化センター 廣江 耕史

1. はじめに

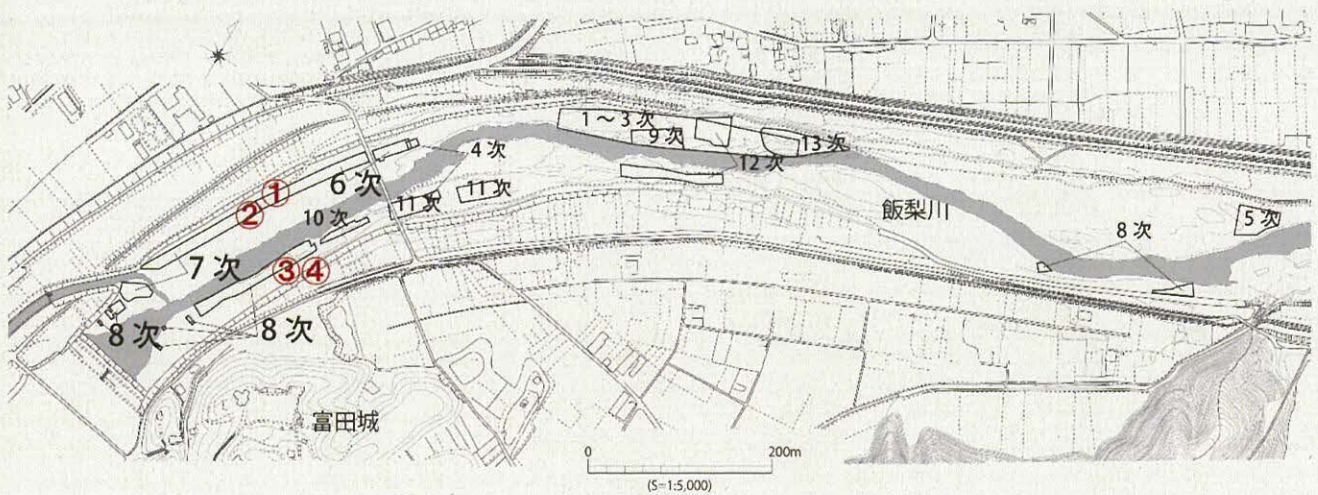
2. 城下町の様子

3. 城下町の変遷

4. おわり



第1図 富田川河床遺跡周辺の主な城館遺跡



1次～3次 (昭和49年～51年) 4次 (昭和51年) 5次 (昭和53年) 6次 (昭和55年) 7次 (昭和56年) 8次 (昭和57年)
 9次 (昭和60年-①) 10次 (昭和60年-②) 11次 (昭和61年) 12次 (昭和62年) 13次 (昭和63年)

第2図 富田川河床遺跡の調査区と切銀出土位置



富田城略年表

時代	城主	年代	主な出来事	
中町戦国時代	尼子氏	天文9(1540)	尼子詮久(晴久)、吉田郡山城を攻める	
		天文11年(1542)	大内義隆、富田城を攻める 種子島にポルトガル人が上陸し、鉄砲を伝える	
		天文18年(1549)	フランシスコ・ザビエルがキリスト教を伝える	
		天文21年(1552)	尼子晴久、8か国(出雲・隠岐・伯耆・因幡・備前・備中・備後・美作)の守護に任命される	
		天文23年(1554)	晴久、叔父である尼子国久率いる新宮党を肅正する	
		永禄8年(1565)	毛利元就、富田城を攻める	
		永禄9年(1566)	尼子義久降伏し、富田城を開城する	
	近世	毛利氏	永禄12年(1569)	尼子勝久、山中鹿介の軍勢が出雲に進攻、富田城に迫る。尼子再興戦
			永禄13年(1570)	毛利軍が布部、山佐合戦において尼子群を破る
			天正4年(1576)	織田信長、安土城の築城を始める
			天正6年(1578)	播磨上月城が落城。尼子勝久自刃、山中鹿介は備中にて殺害
			天正10年(1582)	本能寺の変おこる
			天正11年(1583)	豊臣秀吉大阪城の築城を始める
			天正13年(1585)	毛利元秋、富田にて没する
天正18年(1590)			豊臣秀吉全国を統一する	
近世	吉川氏	天正19年(1591)	吉川広家、富田城に入城する	
		文禄元年(1592)	吉川広家、朝鮮出兵のため富田城から出陣する	
江戸時代	堀尾氏	慶長5年(1600)	関ヶ原の戦がおきる 吉川広家は周防岩国に転封となり堀尾吉晴・忠氏親子が富田城に入城	
		慶長8年(1603)	徳川家康が征夷大將軍に任ぜられる	
		慶長9年(1604)	堀尾忠氏没す	
		慶長16年(1611)	居城を松江城に移す	
	元和元年(1615)	大阪夏の陣がおこる。一国一城令が出される。		
江戸時代	松平氏	寛文6年(1666)	松平氏により広瀬藩が成立 富田川の洪水により富田城下町が川底に消える	

1 発掘調査で切銀きりぎんが出土した遺跡

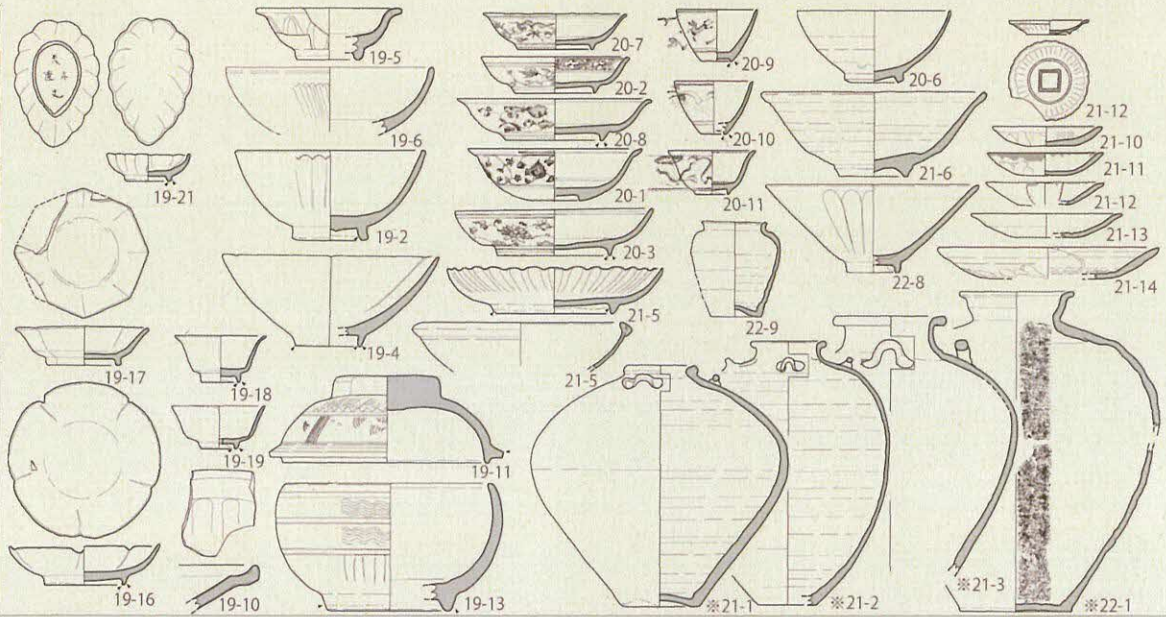
- 1) 石川かが県加賀市田尻たじりシンペイダン遺跡：「永」ごくいんきりぎん字極印切銀 1点 1978年調査
- 2) 長崎さいかい県西海市西海町横瀬郷よこせごう：無刻印切銀むこくいんきりぎん 1点 2021年調査
- 3) 島根県安来市広瀬町富田川河床遺跡：極印切銀・無刻印切銀 4点 1980~82年

2 名称の解説

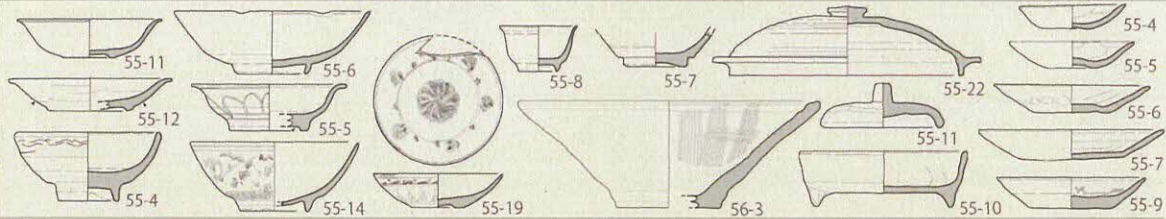
- ・ 称量しょうりょう（秤量）銀貨：額面の価値が定められておらず、それぞれの実際の重量で価値が決まる貨幣。
- ・ 丁銀ちょうぎん：日本国内で主に商取引に使われた、戦国時代後期から明治維新まで流通した銀貨。呼称は棒状の銀塊という意味の鋌銀ちょうぎんが挺銀ちようぎんを経て変化したもの。
- ・ 切銀きりぎん：丁銀を使用する際に、貨幣として必要な重さになるようタガネで切断したものが切銀。丁銀を切銀に変えて使うことを切遣きりづかいと呼んだ。
- ・ 灰吹銀はいふきぎん：銀山で採掘した銀鉱石を灰吹法で精錬したもの。
- ・ 伯州銀山はくしゅうぎんざん（日野銀山、大倉鉱山）：鳥取県日南町所在の銀鉱山。1595年これのり亀井茲矩により開発され、後に豊臣秀吉の命により吉川広家に経営権が移されたという。
- ・ 極印ごくいん：丁銀の表側に刻まれた、小銀、石州、宝などの文字や記号を表す印。
- ・ 極印切銀ごくいんきりぎん：津軽銀、越後銀、佐渡銀、米沢銀、加賀銀、因幡銀、出雲銀、小倉銀、石見銀などが確認されている。
- ・ 無刻印丁銀むこくいん：文字や意匠が刻まれていない丁銀の総称。
- ・ 槌目つちめ：丁銀の表面に残る横方向の窪み。裏面は石目と言ってざらついた状態。
- ・ 灰吹法はいふきほう：銀鉱石を細かく砕いて加熱し、鉛との合金きえん（貴鉛）にしたものを灰の上で熱して鉛と銀を分離し、銀を取り出す。戦国時代（1533年）に石見銀山に導入され国内の鉱山に広まった。

16 世紀中頃

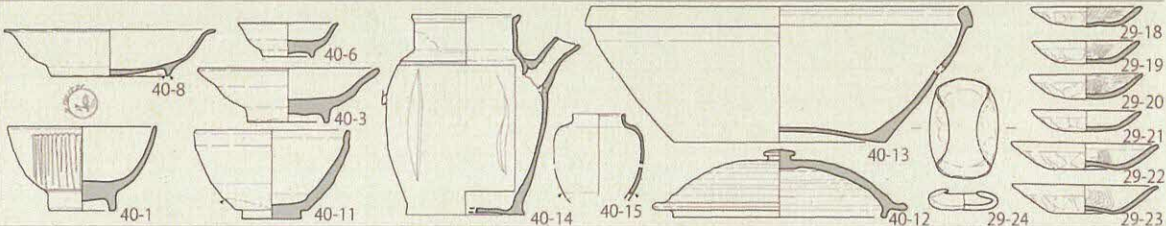
SK015



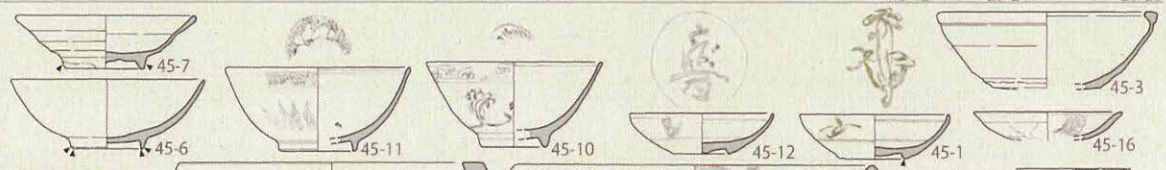
SD027



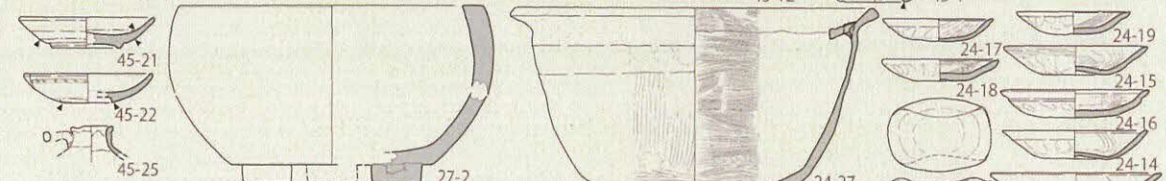
SK041/SK098



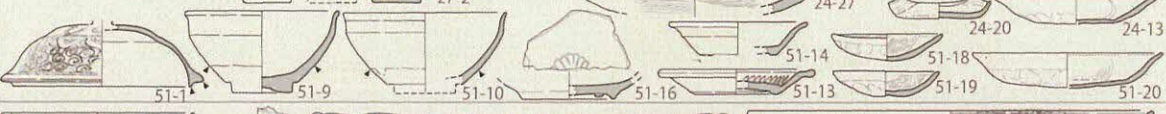
SK116



SK093

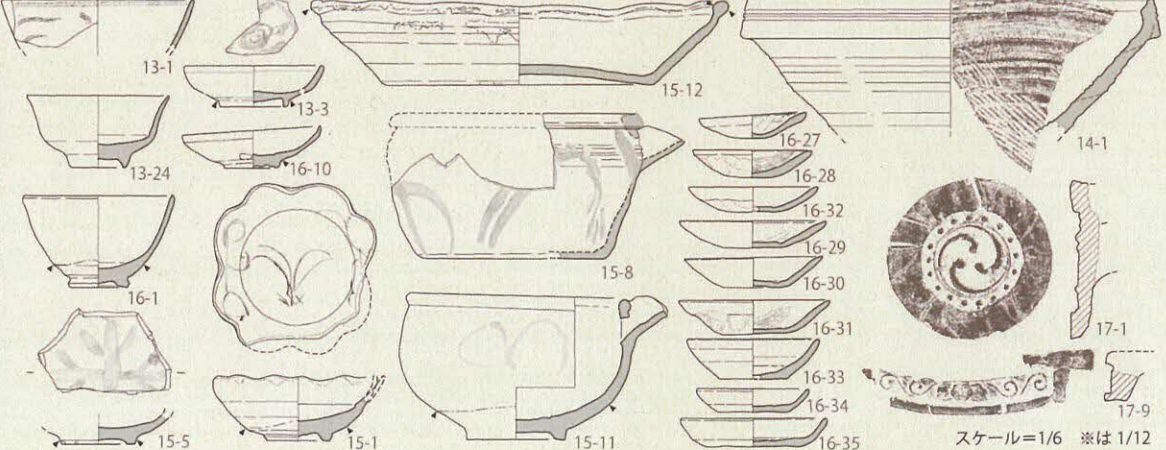


SK065

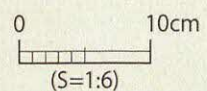


16 世紀末

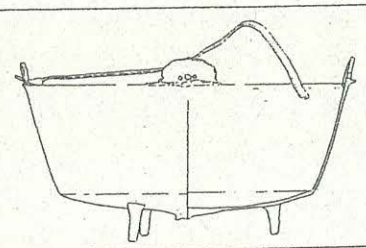
SK017



スケール=1/6 ※は 1/12



7 奈良・京都を中心とした15・16世紀の物価比較

	陶磁器	金属・木製品	農水産品・他
1 文	0.5文・油坏・1422年 かわらけ(基準1文) 3・ほうろく・1569 15・土鍋・1246* 18・スリコ鉢・1400* 30・搦鉢・1430 35・酢皿・1576 40・火鉢・1545◎ (47・茶わん皿・1489)	0.2・はし木・1572年 1・かんなかけ・1491 4・京くれ・1492 4・金剛1足・1480 12・火箸・1545◎ 12・金剛1足・1477 20・鎌・1568 21・小刀・1517◎ 24・まき(1把)1470 25・三稜丁・1492 25・鎌・1560 25・上金剛・1422 30・たらい・1439 32・菜刀・1499 35・刈鎌・1545◎	0.08・梅干し・1489年 0.2・梅干し・1491 0.5・鯛(1コン)1492 0.7・茄子・1491 1.2・牛蒡(1把)1489 1.6・大根(1把)1491 2.3・蓮葉(1把)1489 6・小たい・1492 12・はたご(1人)1419* 14・海老(1コン)1492 25・素麺(1把)1517◎ 25・ハマチ・1491 25・うさぎ・1401* 36・鯉・1492
	50	50・四方火鉢・1488	50・金輪・* 50・包丁・1522* 54・丹波筵・1492 60・菜鍋・1568 70・金輪・* 75・潤鍋・1575 85・金輪・1468 85・鉄・1567
100	1000・火鉢・1453 1000・火鉢・1462 1100・火鉢・1446 1100・備前茶壺・1406	1000・草履・1550 1000・鉄鍋* 1200・胡銅香炉・1491 1200・三升鍋・1572 1300・硯箱・1459 1300・金輪・1439 1500・鍋・1439 1500・鋤・1564 1500・轡・1477 1750・雨傘・1488 1800・つき白・1480 1940・雨傘・1488	1000・大工手間日当・1490 1000・壁塗手間日当・1492 1000・大工手間日当・1419* 1000・鍛冶手間日当・1419* 1100・大工手間日当・1470
	200	450・備前茶壺・1406	2000・畳・1471 2500・小釜・1487 2500・湯釜・1517◎ 3000・畳・1486 4000・井筒・1488
1000	14000・茶わん皿(30)	11000・美濃釉(1反)1492 13000・釜(口1尺2寸)1487 1489 15000・筥・1488 20000・茶の湯釜・1582 50000・風炉釜・1493 50000・懸絵・1493	
7000	70000・建蓋(台付き・3個)1493		
8000	80000・建蓋(台付き)1492		

(*は地方の物価, 図は参考品)

表2 寛文8年広瀬町屋敷帳記載屋号等集計表

〔富田川河床遺跡発掘調査報告〕より)

町	板屋町	本町	下町	鍛冶町	魚町	清水町
刀剣・鍛冶関係	とぎや、灰吹や	灰吹や	鍛冶大工	鍛冶や(18)		さやし
家具等製造・建設関係	鞆ふろや、大工、下鞍屋、うすへりや、井筒屋、井積	井積	木や、たうすや	桶や(2)	木挽、鞆ふろや、桶や	たたみや(2)、大工
日用品・その他製造・販売関係	らうそくや(2) 葉や(2)、はんどや(2)、桶や、花や、こまや、かみや	葉や、絵書	笠ぬきや、笠や、らうそくや(2)、こまやなべや、かわごや、かみや(2)	らうそくや(3) すゞや、笠や	へにや、櫛やはりや	紙や(6)
食料品販売関係	米や(4)、魚や	米や、油や、麴や、熊や(2) たうふや(2)	米や	油や	魚や	塩や
衣料品加工関係	紺屋	系もんや、紺屋(5)	紺や(2)	紺や(2)		
牛馬関係			博勞	博勞、馬持(2)		
住居関係	ながや(「長や」をふくむ) (4)		家作(3)、なかや	家作(5)		家作(8)
サービス業関係		志らかや	ごせ、手子、釘立(針立か)		かみゆい	
金融・宗教・役人関係		目代、くらもとや	蔵元や、山伏	神主		庄や、神主、寺山伏、たかや
出身地その他関係	丹波や、宍道や、ここ(2) 面高や(2)、杵築や、惣田や、屋ぶや、今だや、あべや、鴨や、田中や(「田中」をふくむ)(3)、田原や(4)、福田や、中村、水野、にへで(2)、松や、兵庫や、今村、水、中村	大文字や、大和や、田中や(4)、長谷川(2) 井河、いせや、まどや、あべや(2)、石原屋横田や(2)、柳や、竹下や、成田や	岩や、阿部や、黒坂や、杵築や、田中や、ちどりや、横田や、実松やかどや(2)、こからや、田原や、すかまやいせや、黒や	坂田や、さなだや、福や、田中や(3)、石原や、森山や比田や	植田や、安井や、藪や、長谷川、坂田や、あ志やらや、なからや、こきや、田邊、原田や、田中や、いぐや、いなばや、高浜や	松江や、ここ、松原、高橋や、新宮や
虫損不明		4	8		3	1
記入なし		1		1	1	1
計	57	44	52	47	26	31

註 (1)家号等のあとの数字は戸数を示す。数字記入なしは1戸。

(2)かみやと紙や、紺屋と紺やは同種と思われるが記載のとおりにした。ながや(長や)となかやも同種と思われる。

表3 寛文8年広瀬町屋敷帳面の長さ別戸数集計表

〔富田川河床遺跡発掘調査報告〕より)

町屋号等	3	3.15	3.3	4	5	5.15	6	6.15	6.3	8	9	9.15	9.3	10	12.15	計
板屋町		5	18					3	28				1	2		57
本町			4			1		1	32	2		2	2			44
下町	8	5	18		4			4	11					2		52
鍛冶町	24						21				2					47
魚町	10				1		15									26
清水町	9			2			19				1					31
鍛冶や	9		1				7				2					19
家作	11				1		4									16
らうそくや	2		3				2	2	1					1		11
米や	1		1						4							6
紺や			3				2	1	4							10
紙や	2		2				5									9

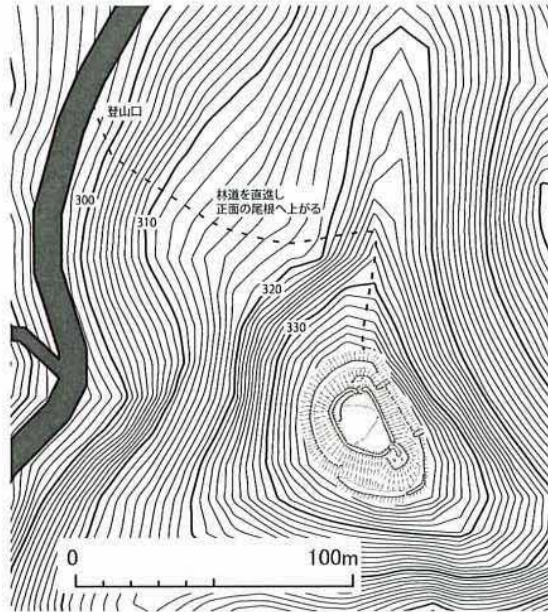
城跡調査から尼子・毛利の攻防をさぐる

島根県立八雲立つ風土記の丘
高屋 茂男

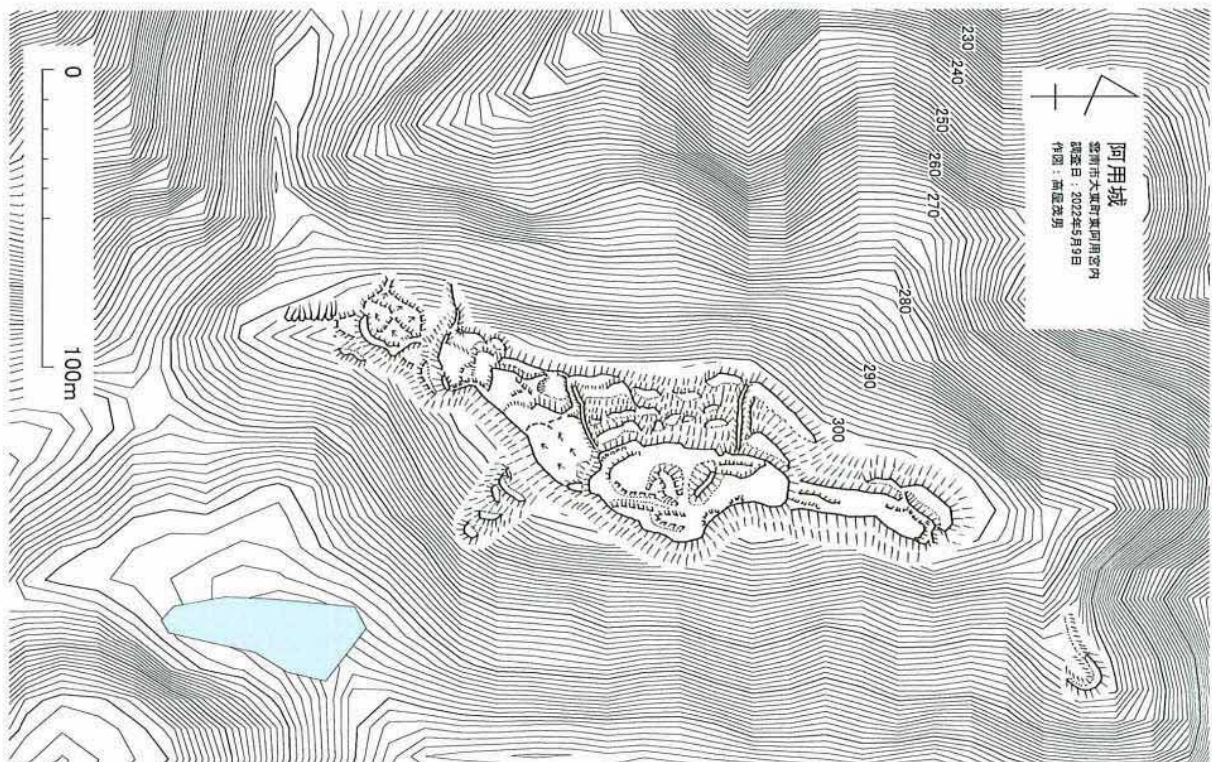
- 1 城跡調査とは
- 2 月山富田城と京羅木山
- 3 熊野城での攻防戦
- 4 近年の城跡調査から
 - ・ 奥出雲町大馬木、小馬木
 - ・ 出雲市佐田町



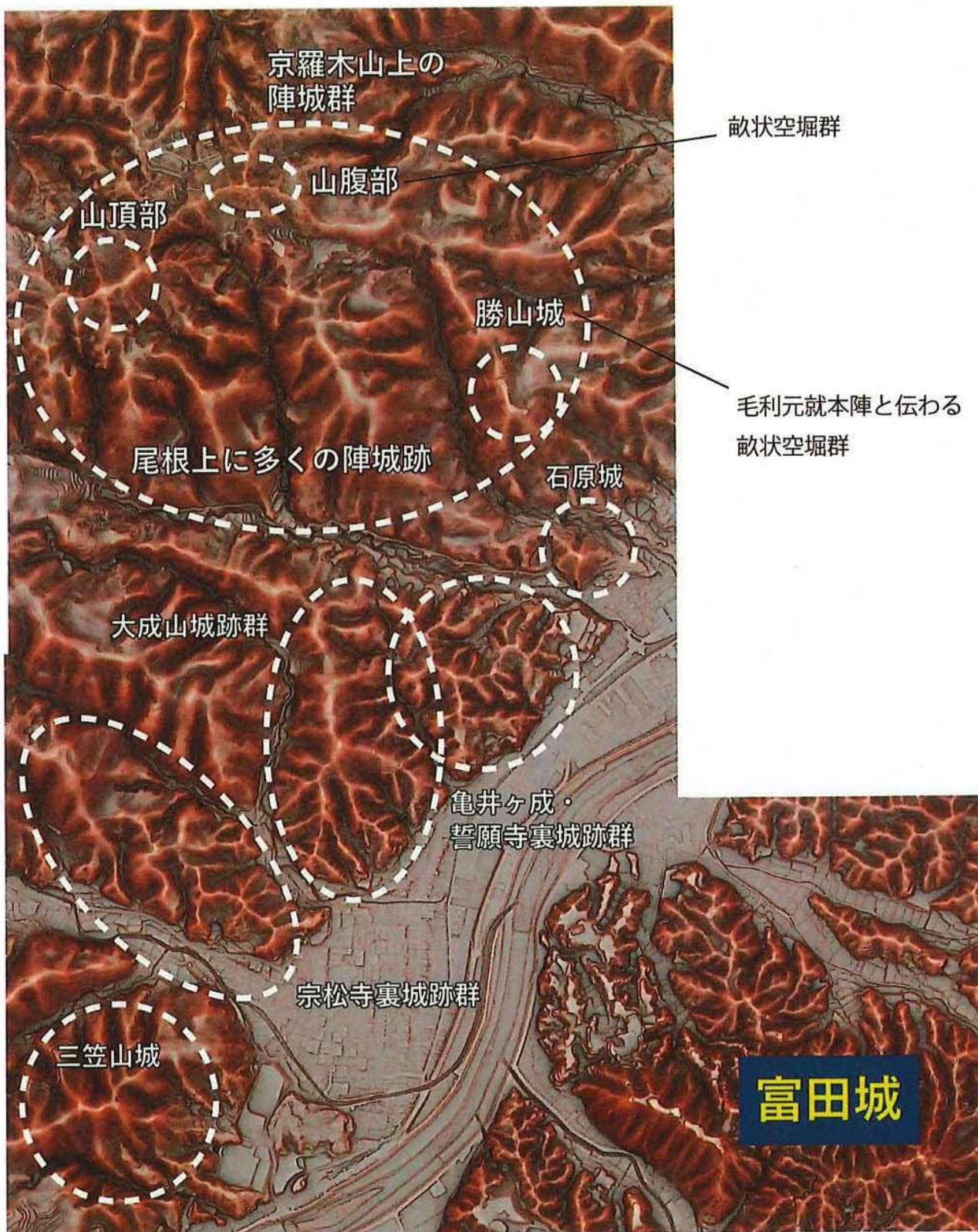
布智城縄張図 (出雲市下古志町)



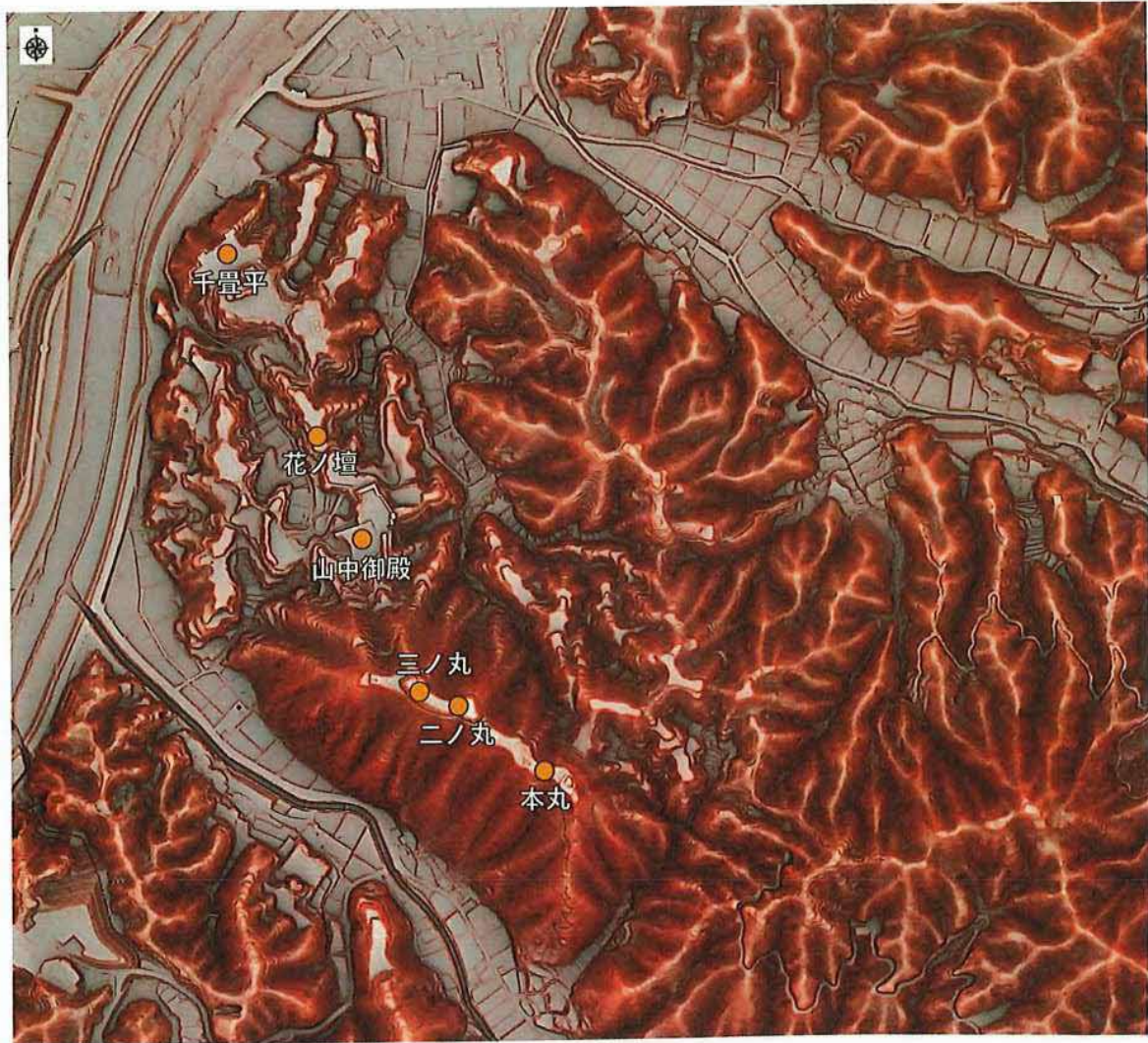
茶臼山城縄張図 (雲南市三刀屋町)



阿用城縄張図 (雲南市大東町)



富田城周辺赤色立体図（安来市教育委員会提供画像に加筆、下記画像は部分拡大）
 島根県立古代出雲歴史博物館 企画展「山陰の戦乱—月山富田城の時代—」より



富田城赤色立体図（安来市教育委員会提供画像に加筆）

京羅木山の陣城

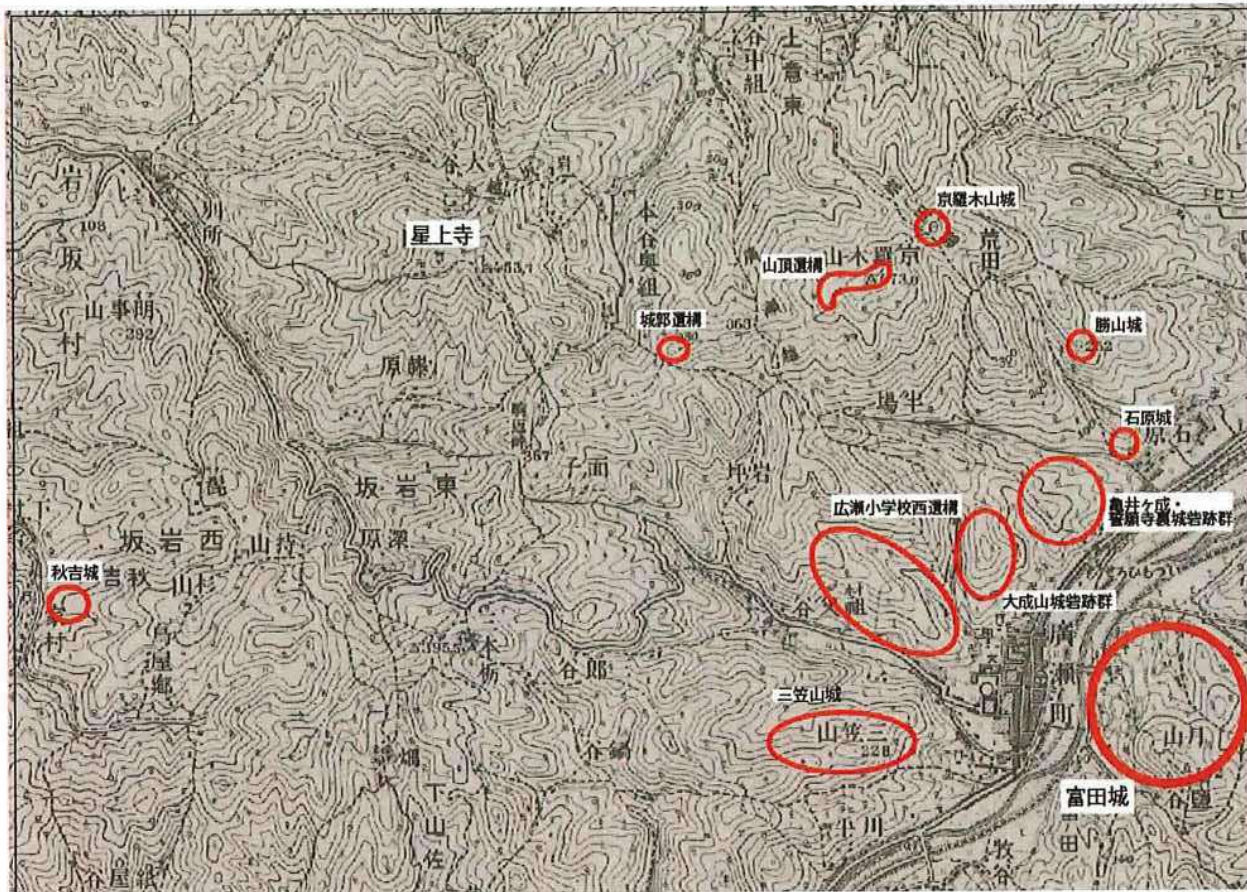
大内軍や毛利軍が本陣とした山。特に峠越ルートをかさえる山腹（画像上）や東側の尾根に構築された勝山城（画像下）は、土塁や連続する堀（畝状空堀群）など、山上でも突出して丁寧な普請がほどこされている。



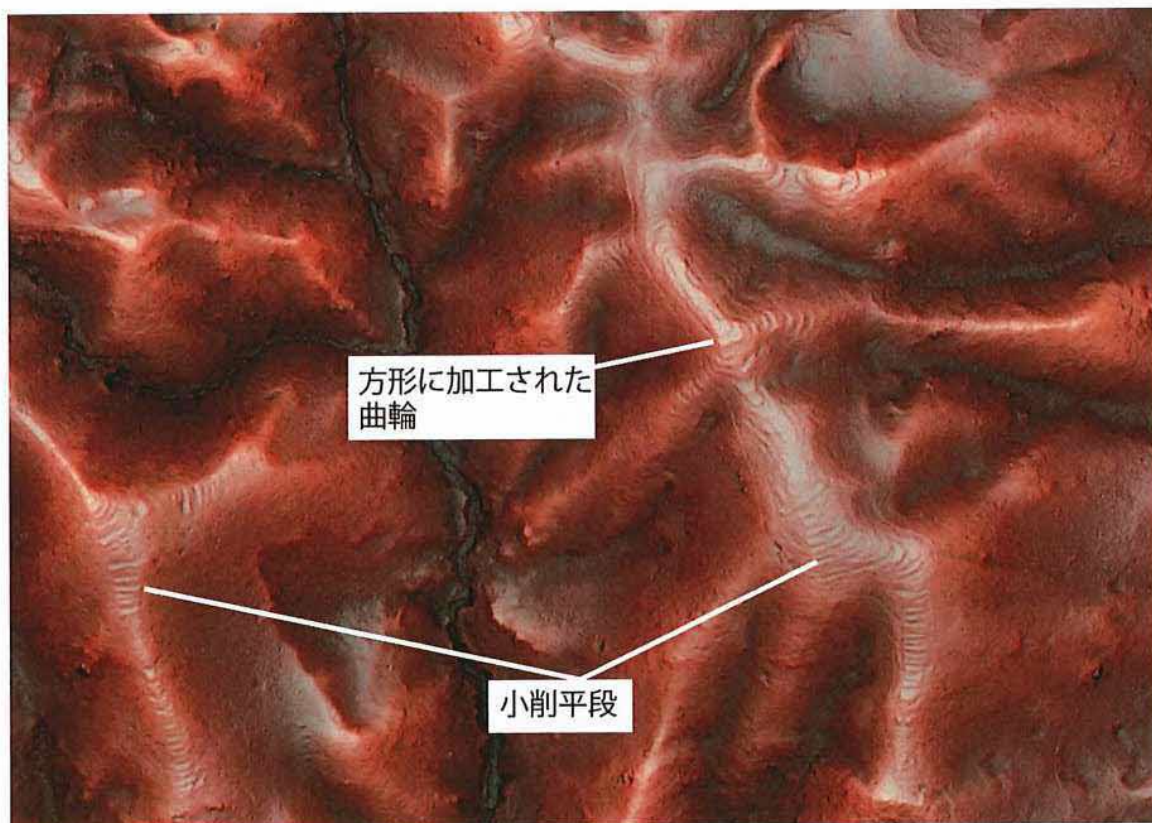
山上を覆う城の痕跡

赤色立体図をみると、これまで城跡と認識されてこなかった山の尾根上にも、陣城跡の可能性がある地形が多く確認できる。基本的には造成が簡易で、小規模な平坦地がいくつも段状にっらなっている。軍勢の駐屯空間であろうか。

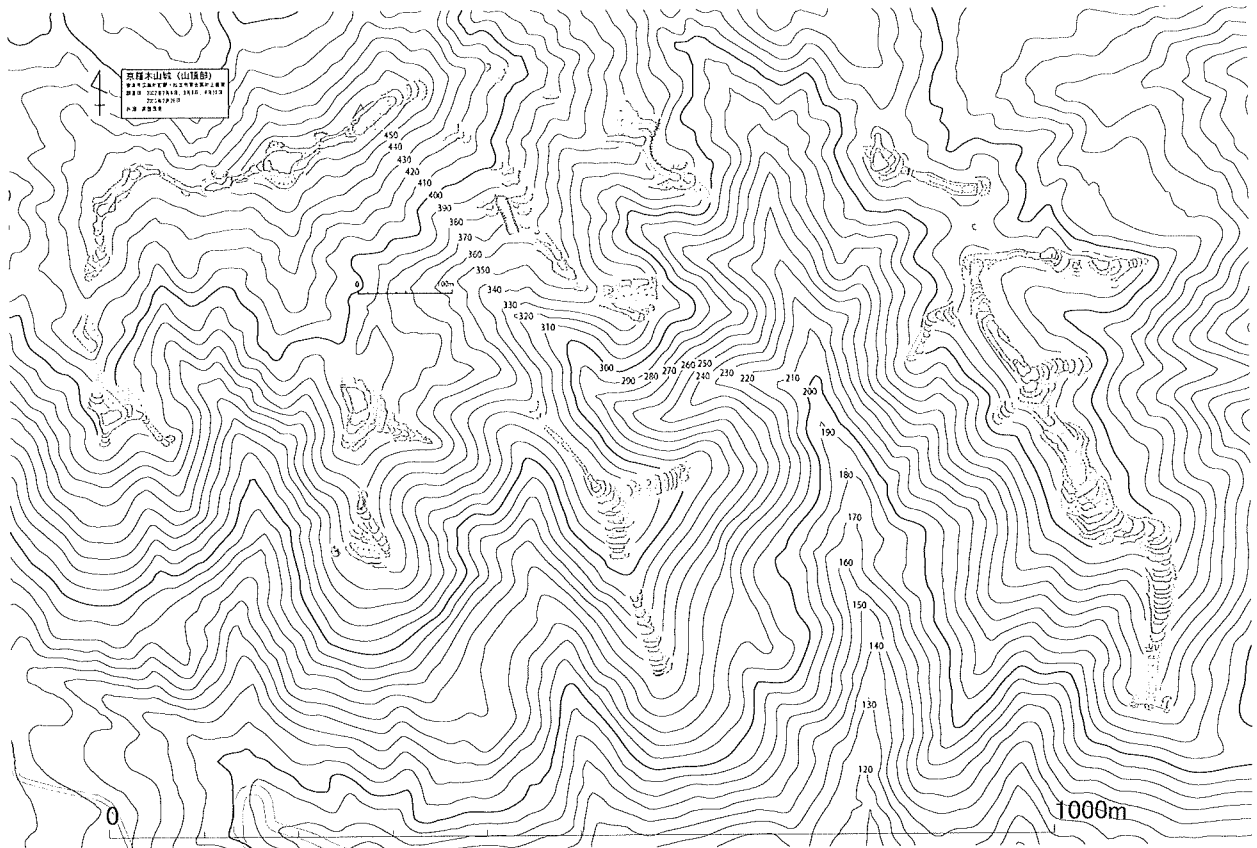




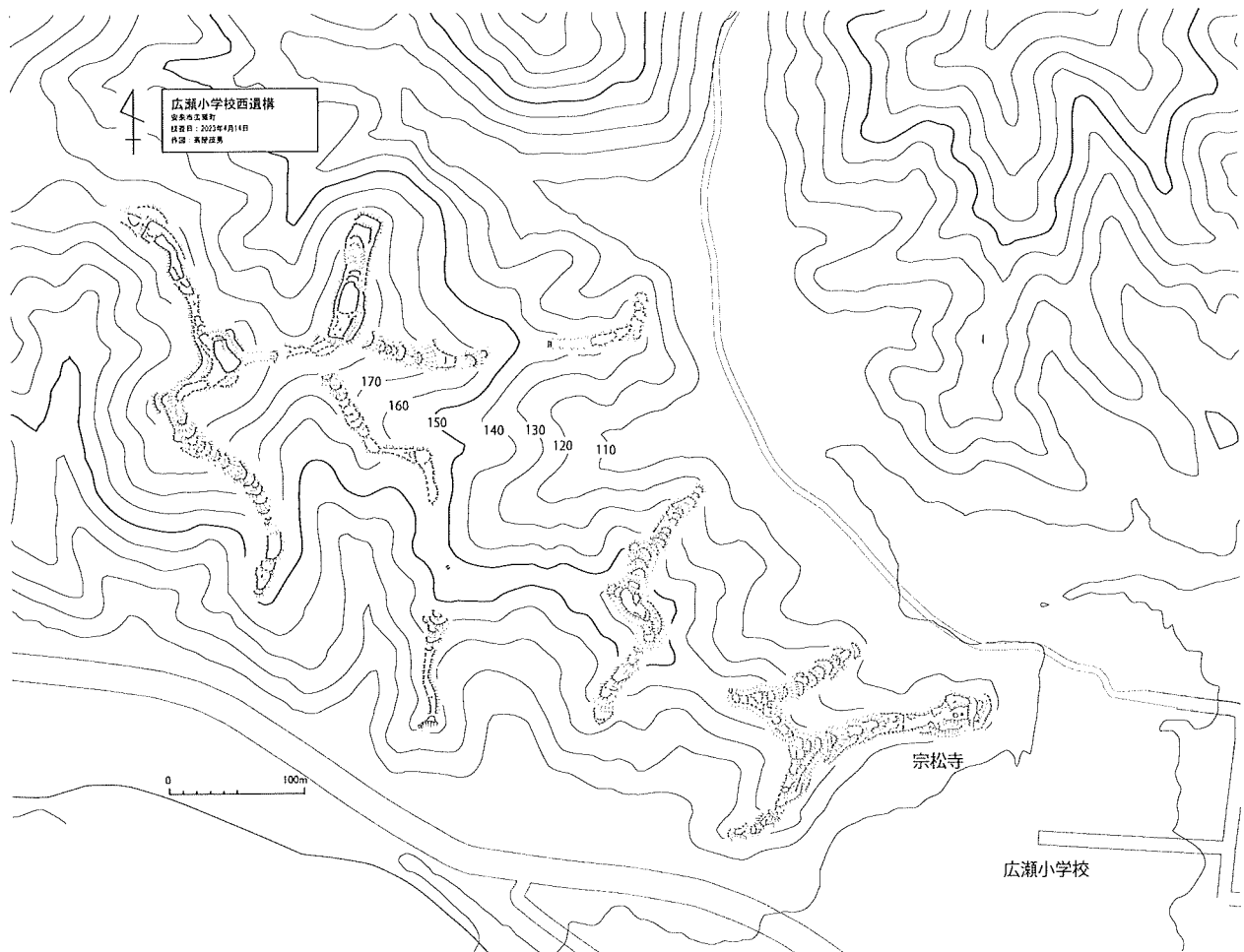
星上山から京羅木山、富田城城郭位置図



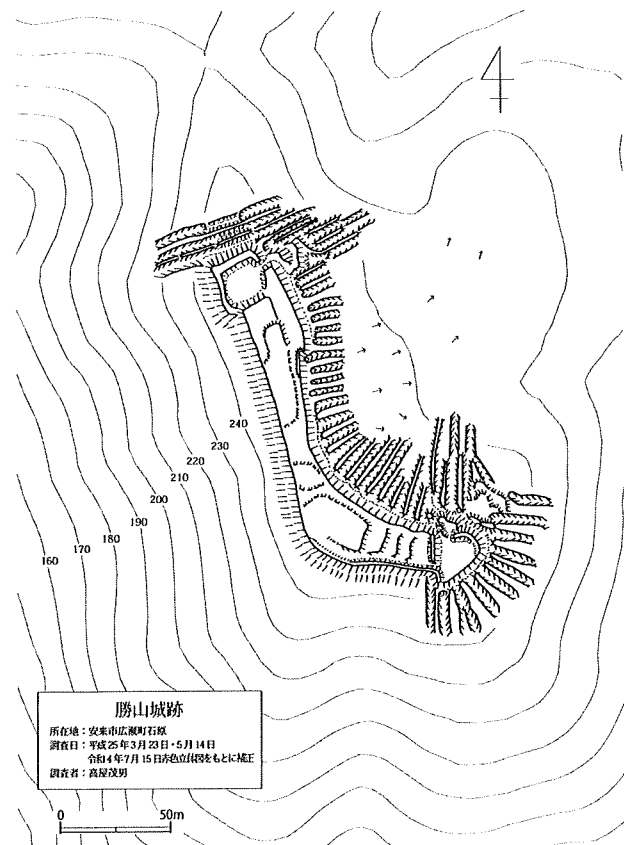
京羅木山中腹・赤色立体図



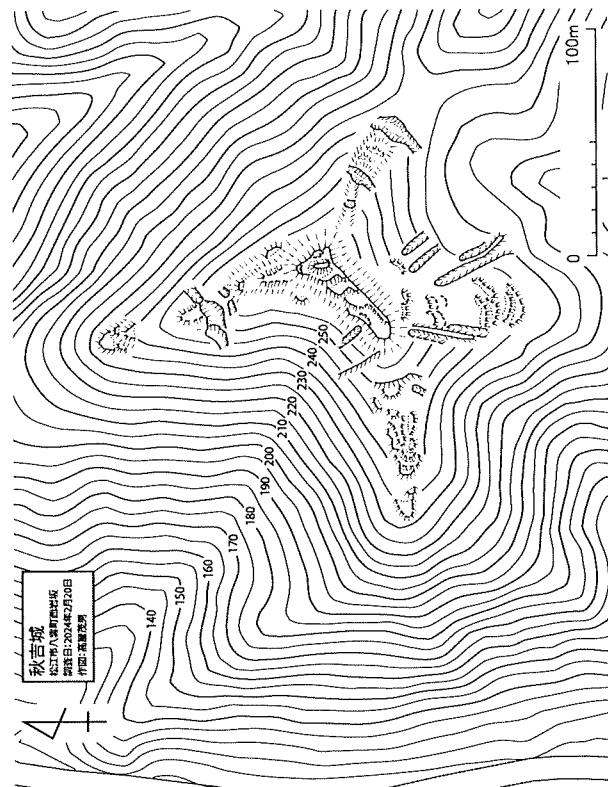
京羅木山城周辺遺構図 (安来市広瀬町)



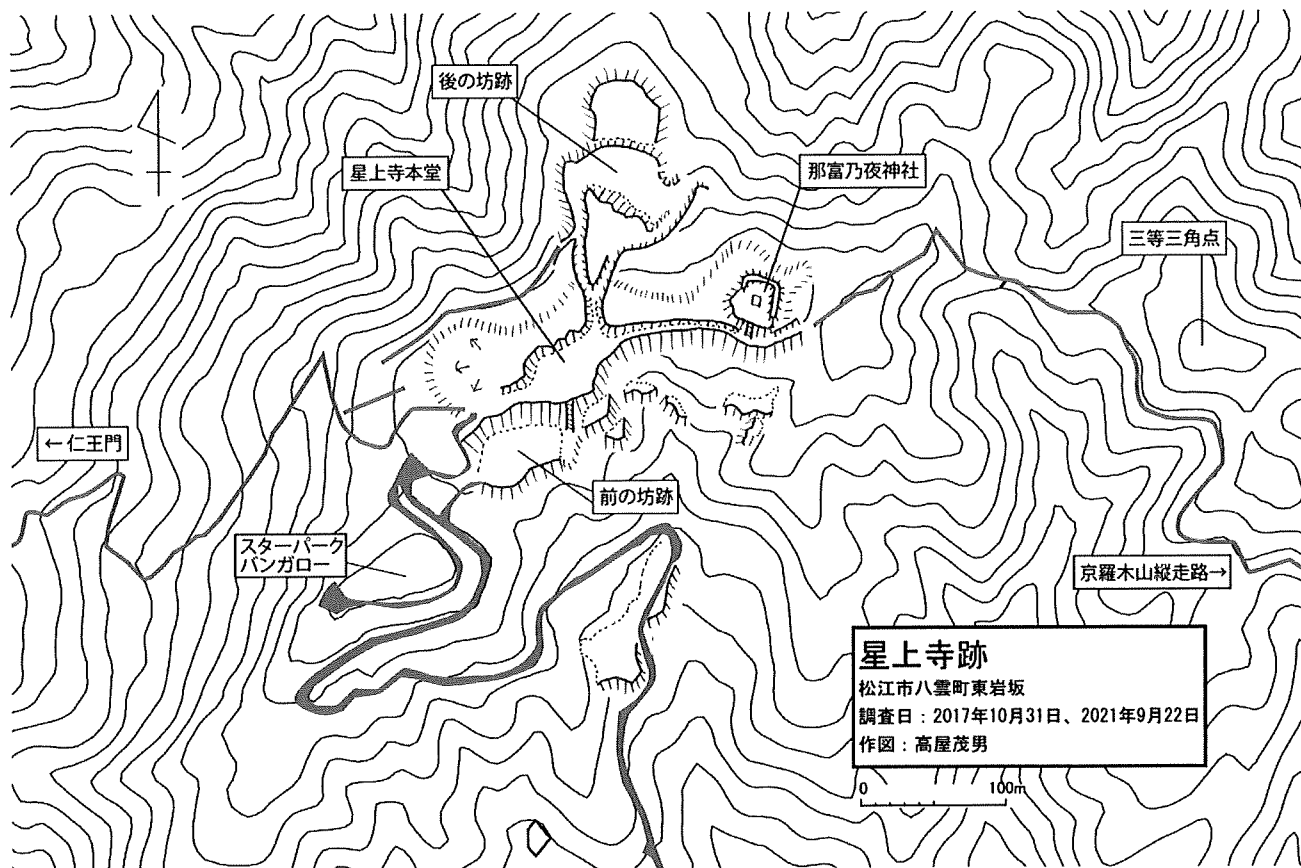
宗松寺裏城縄張り図 (安来市広瀬町)



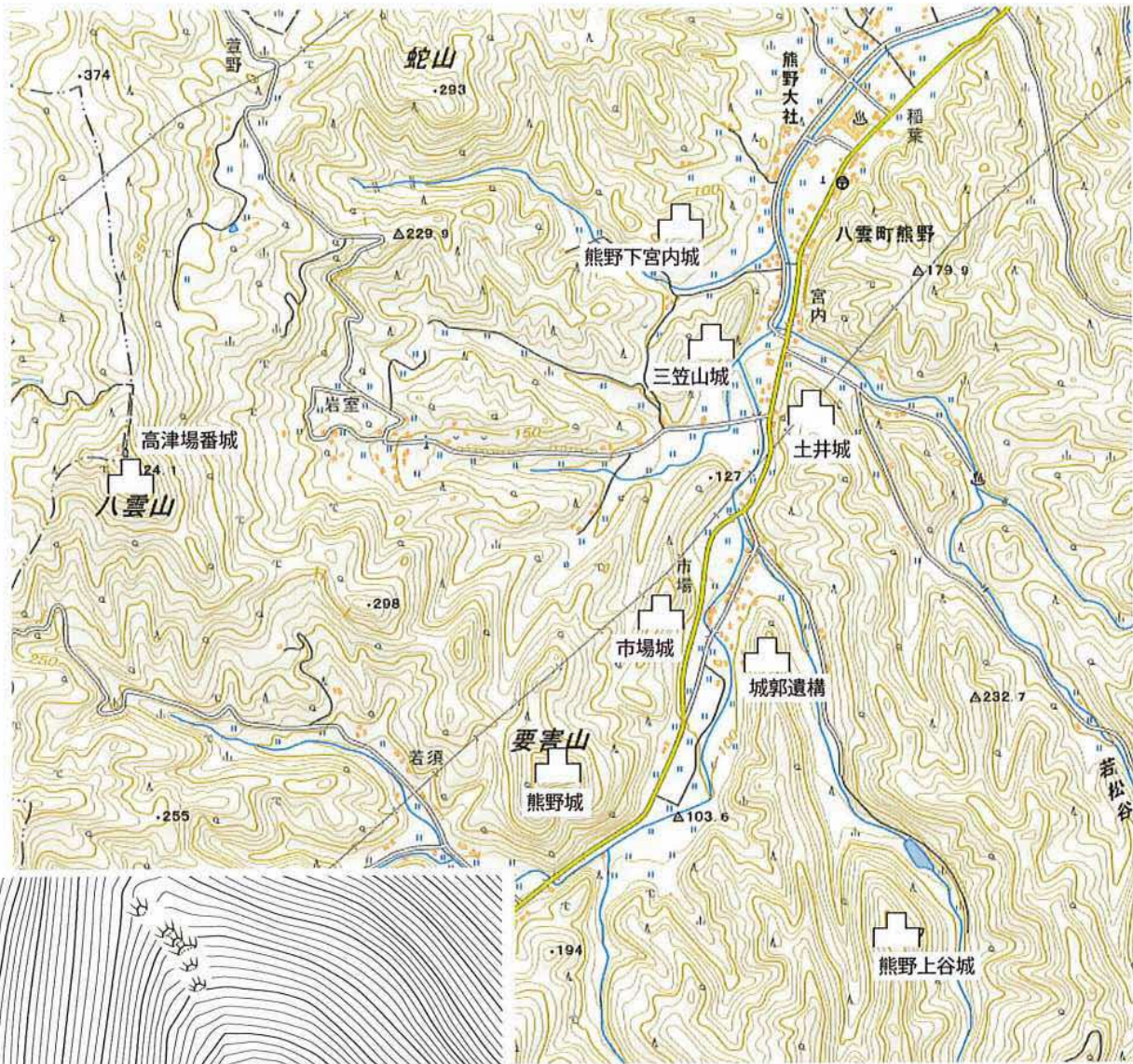
勝山城縄張図 (安来市広瀬町)



秋吉城縄張図 (松江市八雲町)

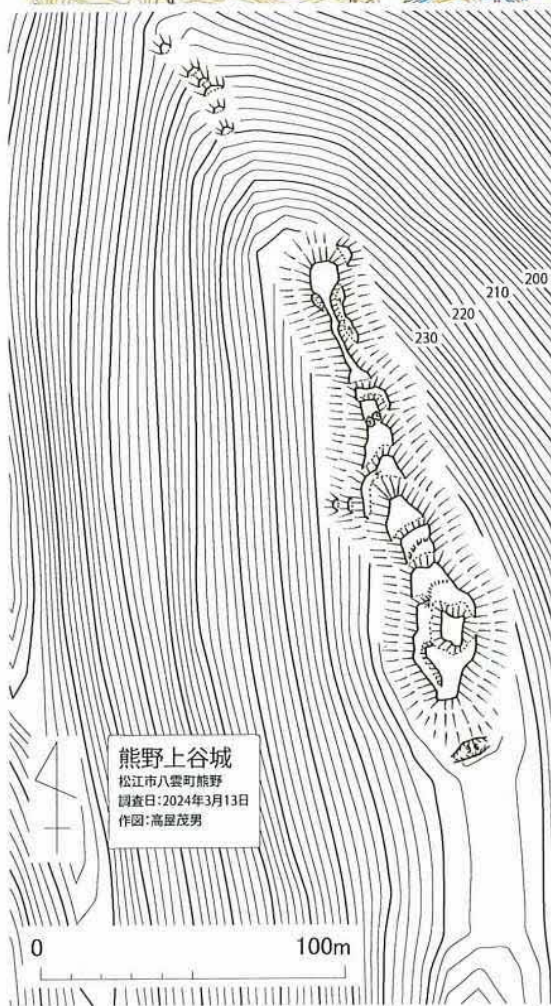


星上山遺構配置図 (松江市八雲町)

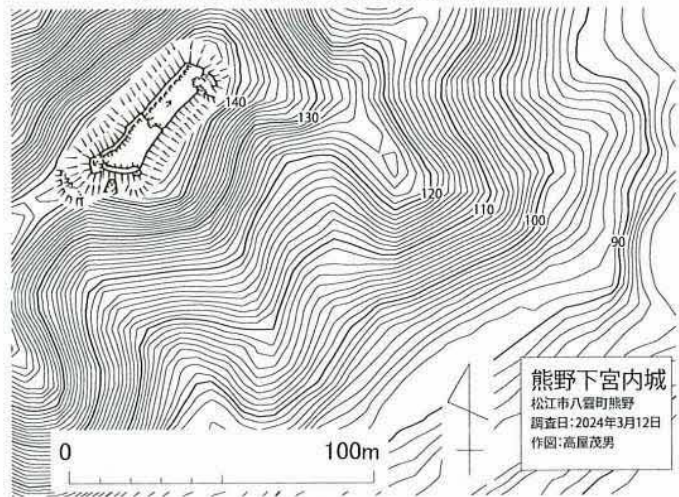


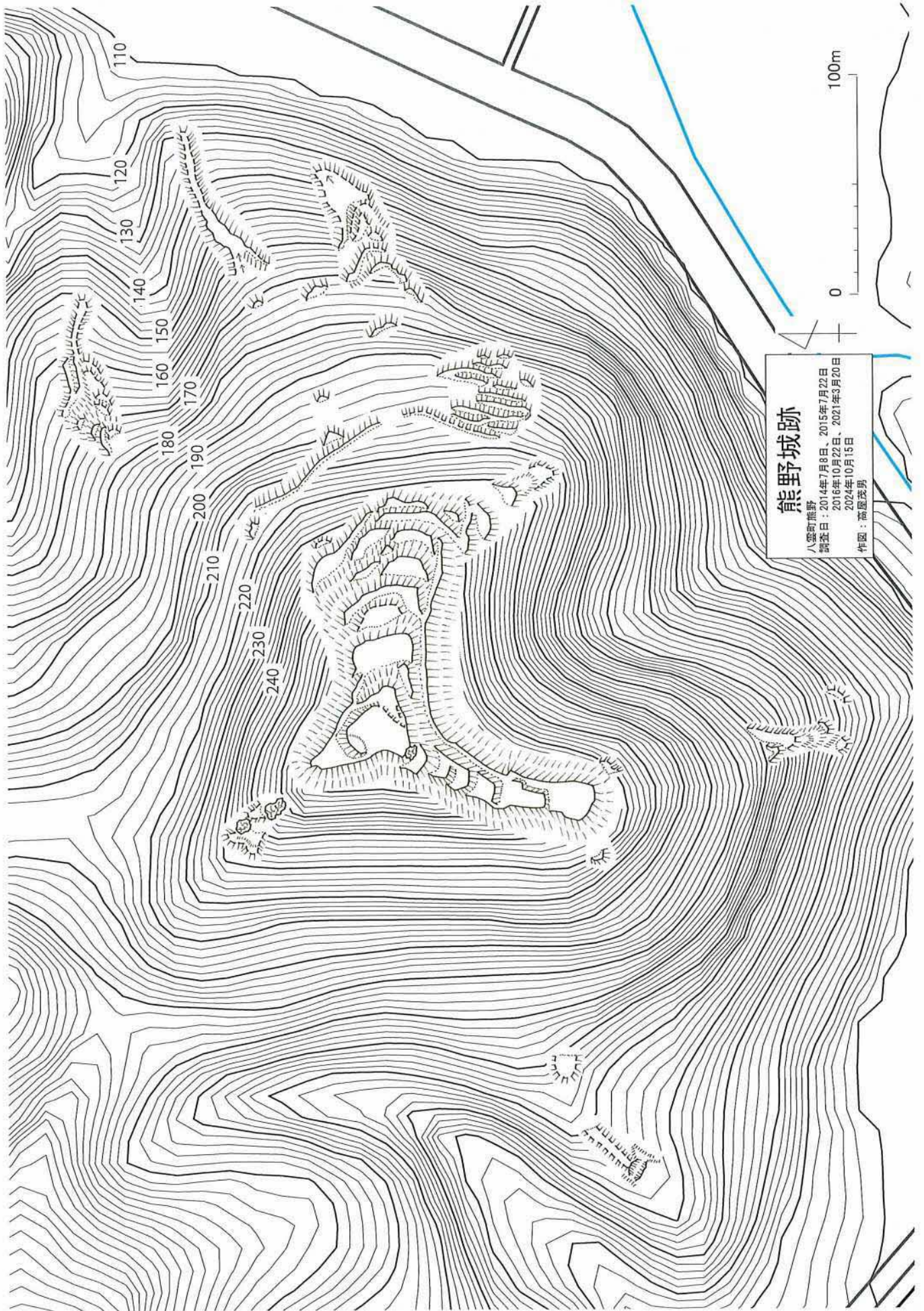
↑熊野城周辺城郭位置図

←熊野上谷城縄張図 (松江市八雲町)



↓熊野下宮内城縄張図 (松江市八雲町)





熊野城跡
 八雲町熊野
 調査日：2014年7月8日、2015年7月22日
 2016年10月22日、2021年5月20日
 2024年10月15日
 作図：高屋茂男

熊野城縄張図 (松江市八雲町)

五二一 吉川元春軍中状

不令合點候(花押)

於吉州嶋根白鹿裏喜詰口并熊野表分捕高名被犯人取事

八月十九日夜白鹿裏至嶋木富田森相動候時 飛登嶺園之各數廻相敵

勝利之事

頭一 祭浦宗十郎 小河内藏兵衛尉討捕之

九月十日從妻喜我等詰口并仕懸候之處 則懸合城內 追及於無敵敵

討捕勝利事

頭一 御遠藏右衛門尉討捕之

頭一 長和与五郎討捕之

阿十一日於白鹿嶺口森合戰事 吉川次郎 小谷源五郎 三頭孫三郎

無比類仕候事

阿十日并熊野表相動之退口之候 及合戰勝利之事

頭一 堺宗六郎尉之

頭一 森島淵四郎尉之

頭一 山縣小五郎尉之

吉川和守

白鹿嶺口

江田 孫三郎

朝枝 市佑

森島大藏左衛門尉

小谷源五郎

山縣小次郎

長和余五郎

安本五郎左衛門尉

稻光内藏大夫

山田中平四郎

寺木玄香

田岡勘兵衛尉

大草莖左衛門尉

佐伯淵四郎

須子孫右衛門尉

宮原淵次郎

江木雅樂丸

大林孫左衛門尉

奥野市佑

東条与三左衛門尉

佐々木次郎四郎

應具四郎兵衛尉

靜間内藏丞

奈良井太郎左衛門尉

井藤与四郎尉

小田孫兵衛尉

小田彌五郎尉

吉川次郎内三左衛門尉

中田彌次郎尉

吉川次郎内矢賀崎助六

中間与三郎

中間新次郎

吉川次郎内小次郎

吉川次郎内内彦次郎

中間彌三郎

中間大次郎

小坂源十郎

小坂彌七郎

山縣大五郎

中間左衛門五郎

中間三郎衛門

中間五郎三郎

山縣次郎

川四郎次郎尉

中間三郎次郎

中間左衛門五郎

中間与三郎尉

山縣次郎

非字与三郎

中田与次郎

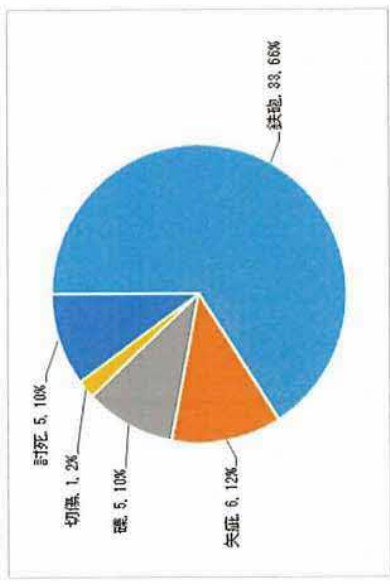
桑原源次郎

中間小六

以上

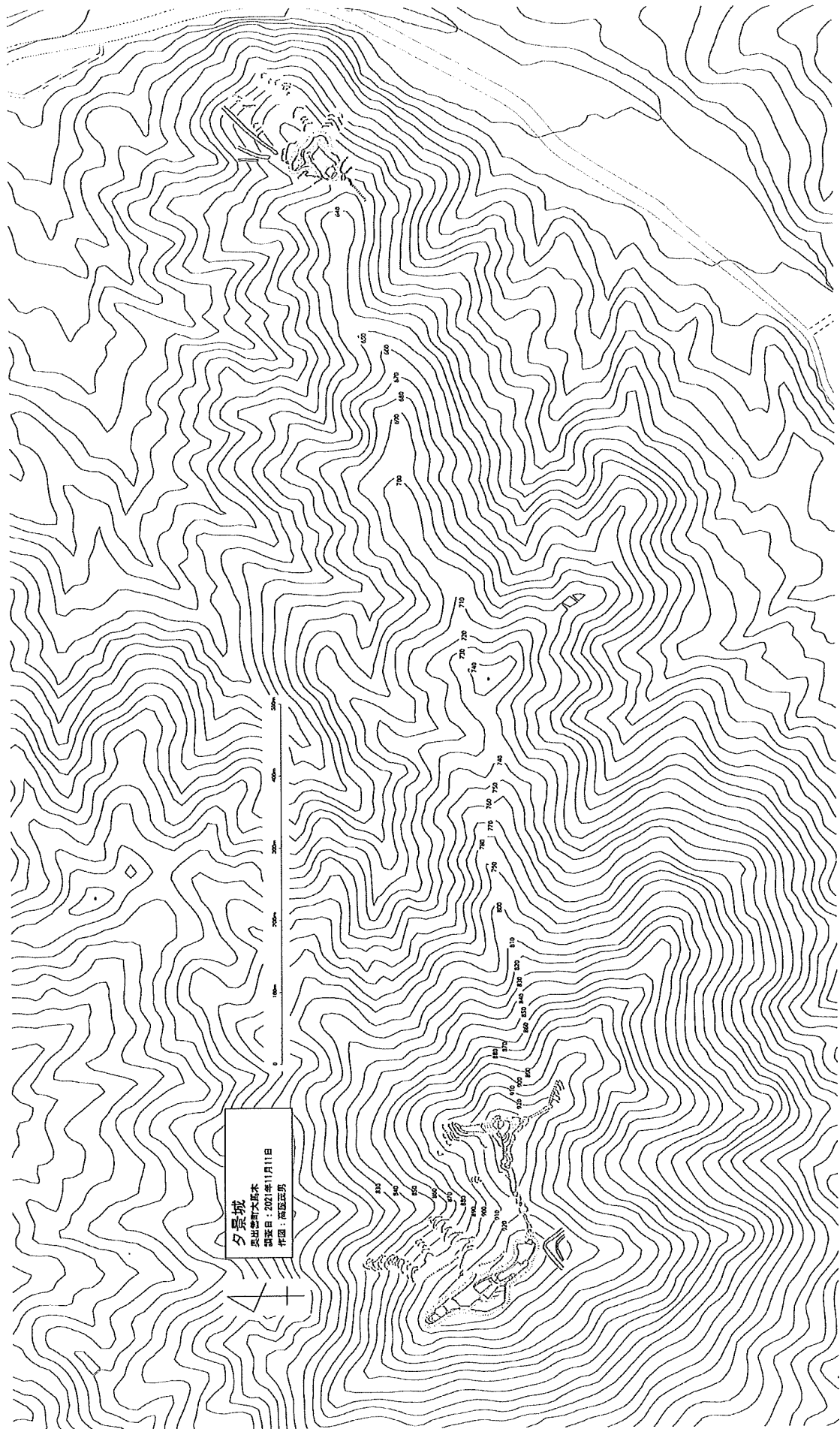
永祿六年十一月十三日

元春

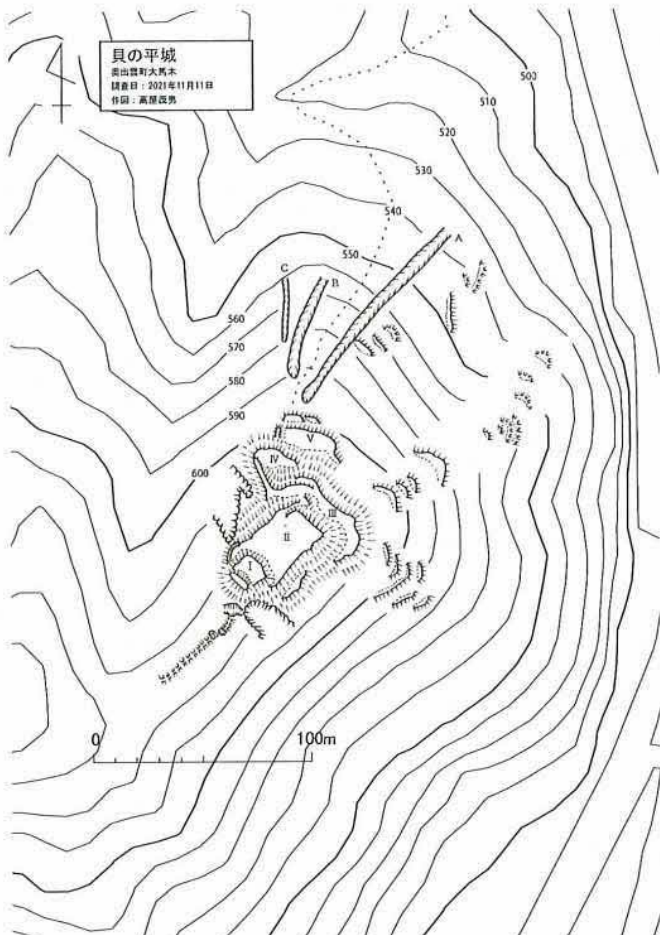


永祿六年十一月十三日付吉川元春軍中状(吉川家文書・大日本古文書五一一)

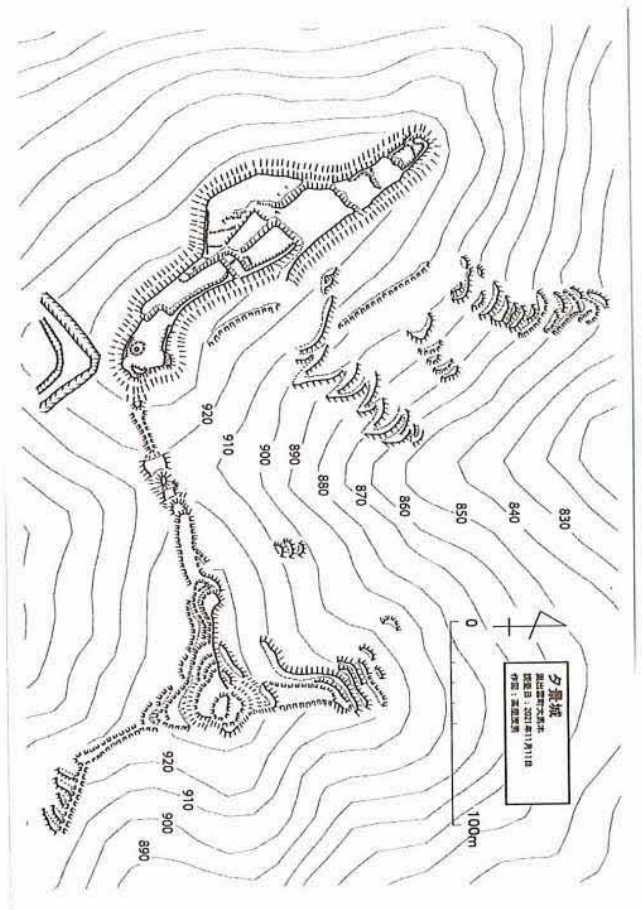
名	理由	場所	理由集計
1 江田孫三郎	鉄砲	左手	33
2 朝枝市佑	鉄砲	胸	5
3 森島大藏左衛門尉	鉄砲	左手	6
4 小谷源五郎	鉄砲	首	1
5 山縣小次郎	鉄砲	左股	45
6 長和余五郎	切疵	左手	1
7 安本五郎左衛門尉	鉄砲	首	1
8 稻光内藏大夫	鉄砲	左足	2
9 山田中平四郎	矢疵	右手	5
10 山縣源十郎	鉄砲	左手	5
11 寺本玄香	鉄砲	左足	1
12 田岡勘兵衛尉	矢疵	腰	6
13 大草莖左衛門尉	鉄砲	腰	1
14 佐伯淵四郎	鉄砲	首	7
15 須子孫右衛門尉	矢疵	左股	3
16 宮原源次郎	鉄砲	右足	2
17 江木雅樂丸	鉄砲	右肩	8
18 大林孫左衛門尉	鉄砲	右足	4
19 奥野市佑	鉄砲	腰	45
20 東条与三左衛門尉	鉄砲	右腕	15
21 佐々木次郎四郎	鉄砲	左肩	17
22 應具四郎兵衛尉	鉄砲	右腕	17
23 靜間内藏丞	鉄砲	右足	5
24 奈良井太郎左衛門尉	鉄砲	左足	5
25 井藤与四郎	討死		
26 中間 孫兵衛	討死		
27 中間 弥五郎	討死		
28 吉川次郎内 中田 与三左衛門	矢疵	左足	
29 吉川次郎内 中田 弥次郎	鉄砲	左足	
30 吉川次郎内 矢賀崎助六	鉄砲	右肩	
31 中間 与三郎	鉄砲	右足	
32 中間 新次郎	鉄砲	左足	
33 吉川次郎内 中田 小次郎	鉄砲	右腕	
34 吉川次郎内 中田 内彦次郎	鉄砲	右腕	
35 中間 弥三郎	鉄砲	右足	
36 中間 大郎次郎	鉄砲	首	
37 小坂源十郎	鉄砲	左足	
38 小坂彌七郎	鉄砲	左手	
39 山縣大藏左衛門	鉄砲	右股	
40 中間 与三郎	鉄砲	右足	
41 中間 五郎三郎	鉄砲	首	
42 山縣次郎内 川四郎次郎	鉄砲	左足	
43 中間 三郎次郎	矢疵	左足	
44 中間 左衛門五郎	鉄砲	右股	
45 朝枝市佑 中間 与三郎	鉄砲	右足	
46 山縣又三郎 中間 大郎左衛門	鉄砲	右足	
47 井下平三 中間 左衛門五郎	鉄砲	腰	
48 佐々木次郎 中間 与次郎	鉄砲	右手	
49 桑原源七郎 中間 小六	鉄砲	右手	



夕景城・貝の平城縄張図 (奥出雲町)



貝の平城縄張図 (奥出雲町大馬木)



夕景城縄張図 (奥出雲町大馬木)

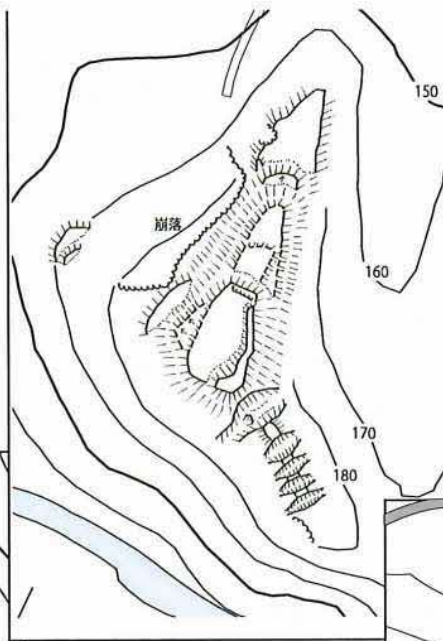


小馬木城縄張図 (奥出雲町小馬木)

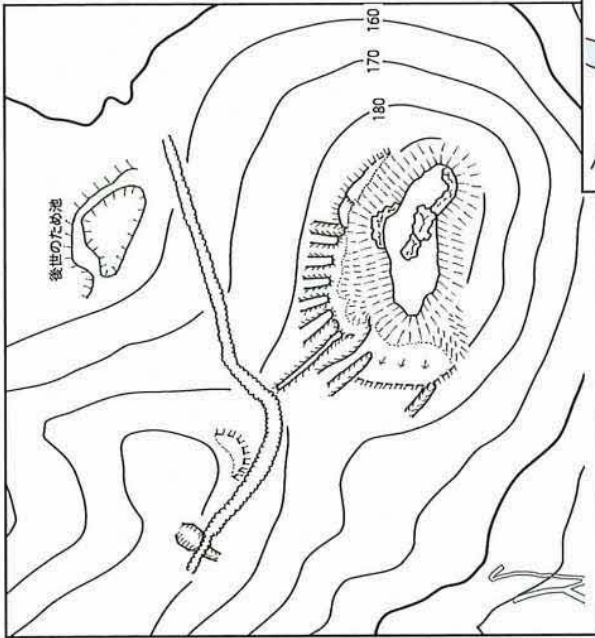


奥出雲町大馬木・小馬木城郭位置図

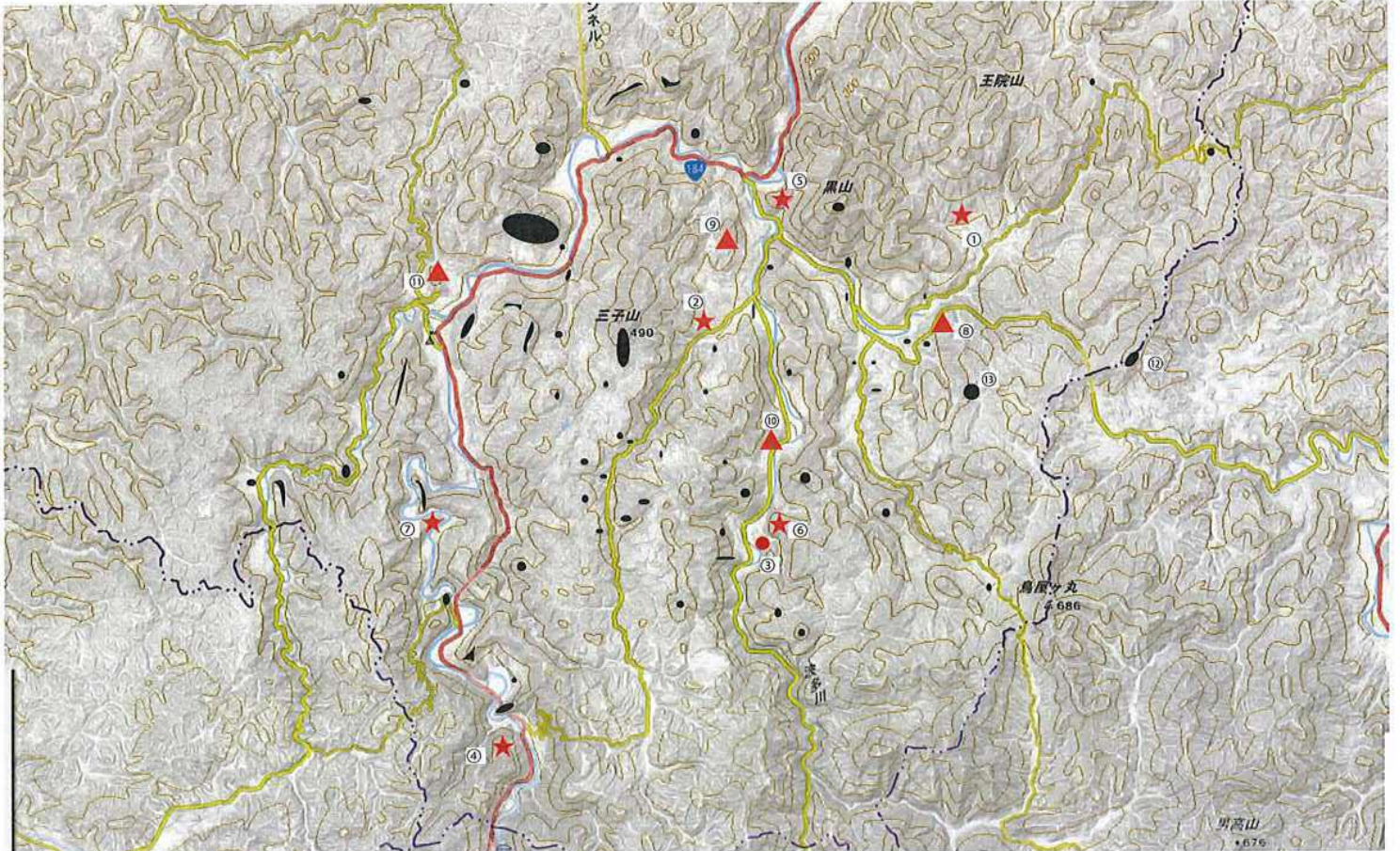
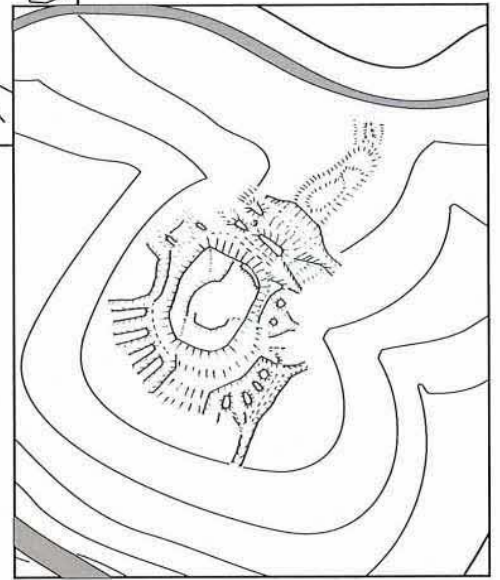
←八幡山城縄張図 (出雲市佐田町)



↓茶磨山城縄張図 (出雲市佐田町)



↓立花城縄張図 (出雲市佐田町)



- ★多重堀切 ①石宇城山城 ②秋森城 ③八幡山城 ④柳瀬城 ⑤屏風山城 ⑥竜体谷城 ⑦小池城
- ▲畝状空堀群 ⑧立花城 ⑨高櫓城 ⑩茶磨山城 ⑪伊秩城
- その他重要城郭 ⑫陣ヶ丸城 ⑬尾崎山城

※明朝休日ははっきりとわからないもの、あるいは未調査